

第3回柏崎市総合計画審議会・柏崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定委員会概要

1 日 時 平成27年9月1日(火) 午後3時から午後5時10分まで

2 場 所 柏崎市役所4階 大会議室

3 出席者

(1) 委 員 18名(欠席:2名)

(2) 庁 内 市長、副市長、教育長、総合企画部長、財務部長、危機管理監、市民生活部長、福祉保健部長、産業振興部長、都市整備部長、会計管理者、ガス水道局長、消防長、教育部長、議会事務局長

(3) 事務局(企画政策課) 課長、主幹、企画係長、政策係長、企画係員2名、政策係員1名、受託事業者

4 概 要

会長からの開会のあいさつの後、事務局から次の事項について資料に基づき説明を行い、その後、委員による質疑・意見が行われた。

(1) 将来人口推計について

(2) 総合戦略の骨子について

発言者

発 言 概 要

<将来人口推計について>

委 員 : 推計値については、単に推計するだけではなく、それに対してどのような施策を行ったらそういう結果になるのかが重要である。

委 員 : 推計値であり、これについての意見は必要ないと思うので、これを頭に入れたうえで次の議論になるのだろう。

委 員 : 過去の長期計画の推計では、具体的なプロジェクトを積み上げていって、最終的に人口がどうなるかというやり方だった。今回は秋にまち・ひと・しごと創生総合戦略で45年後の人口を決めなくてはいけないという制約があるのは理解している。先行している総合戦略と、これから細かな積み上げになるだろう総合計画との関係、どのように組み立てていくのか。

事務局 : 総合計画についても、この人口ビジョンを踏まえて策定していくこととなる。

委 員 : このままでいくと4万2千人になる人口を7万人に向けて上げていこうということで、ある程度幅があるが、今日の審議会の議論の中で固めていくという話になるか。

会 長 : そのつもりである。人口推計については、具体的な施策を考えるうえで7万人を目指していくということで、ご理解いただきたい。

<総合戦略の骨子について>

委 員 : 基本目標は、従来から行政で取り組んでいるものだと認識している。そこで、過去10年間どのような取組をして、成果はどうだったのか、そしてどう改善しなくてはいけないのか、チェックをすることが重要である。

会 長 : 今回は総合計画より総合戦略に重点がおかれていて、早くまとめなければいけないのも事実である。第四次総合計画の総括はいつごろやるのか。

事務局 : 第四次総合計画の総括については、後期基本計画の3年分の総括を今各分科会で行ってい

る。１０月２０日の審議会には提示し、分科会での進捗状況を見ながらそれを踏まえて総合戦略に反映していきたい。

委員： 次回の１０月２日にある程度の詳細な説明があると理解したが、ＫＰＩについても設定されたものが出てくるとすれば、非常に大事な部分なので第四次総合計画の検証が組み込まれないと妥当なものではないのではないか。きちんとまとめた報告は１０月２０日以降でも構わないが、今回のプロジェクトに係わる部分は次回１０月２日に提示していただきたい。

副会長： ５ページの「結婚活動支援プロジェクト」も交流によって友達の輪を広げるという視点も加えてながら、市内の類似する取組とも連携を取りながら是非力を入れてほしい。６ページの「誇り教育プロジェクト」については、まずは先生方が柏崎に愛着と誇りをもってもらい、それが子ども達に伝わっていくことにつながるので、そのためにも柏崎出身の教員が増えるとうい。また「柏崎学」として、大人も子どもも一緒に学ぶプログラムが作られるとうい。６ページの「若者回帰プロジェクト」について、定期的に故郷から情報が送られてくるような仕組みが柏崎としてあってもよいのではないかと。

委員： 地域産業活性化プロジェクトの中に、基幹産業である機械金属工業だけでなく、建設業のほうも地方における雇用の基幹という位置づけで対策をお願いしたい。定年を迎えても、働ける人が長く働ける仕組みづくりを市としてもなんらかの形で施策の中に折り込んでいただきたい。

委員： ４ページの「若者雇用促進プロジェクト」が重点プロジェクトになっているが、雇用の場はあるけど市外に出てしまうから市内に戻そうというのか、戻りたいが働く場がないから対策しようということなのか、どういう主旨で重点プロジェクトとなっているのか。

事務局： これまでも雇用の関係の事業はやってきているので、それを継続しながら中でも効果のあるものは重点をおきたい。雇用の場があるけど戻ってこない、戻りたいが働く場がないということについてはどちらも力を入れていきたい。既存の企業を伸ばしながら、企業の誘致で雇用の場を促進し、ＵターンＩターンで外からの転入を増やしていきたい。

事務局： 柏崎の場合、働く場はあるが若者からみると魅力が少ないので、既存の企業をブラッシュアップして伸ばしていくことと、もっと若者の雇用の場をつくるために企業誘致をすること、地場産業と企業誘致の両方ですすめていきたい。

委員： 地元に戻りたくとも戻れないというのが実態ということ踏まえると、産業の活性化について広く浅くの施策ではなく、やる気のある企業を厚く支援していく方向に切り替えていかないと成果的な部分が見えないのではないかと、産業の活性化についてはあきらめずに進めていってもらいたい。

委員： 若者の定着からいうと、雇用の問題は一番重要である。

若者が愛着と誇りをもって暮らすことを目指していくには、まずは今の私たちが愛着と誇りをもってこの難局をひっぱっていこうということが大事であり、ひとつの視点として計画に取り込むことも大事ではないかと思う。

委員： 人口減少問題については中山間地が激しいので、中山間地の農業が重要になってくる。儲かる農業、農業の六次産業化に取り組んでほしい。

2点目に、地域活性化には観光産業が重要であり、柏崎市には貴重な魅力ある観光資源もあるのでブラッシュアップして観光産業の振興をすすめてほしい。

「若者回帰プロジェクト」では、Iターンも積極的にやっていくべきである。

記述に関して「検討します」ではなく、進めるような取組をしていただきたい。

委員： 中山間地における農業に関して、農業の魅力を若者に伝えていくうえでも、法人化した組合だけではなく、任意の組合にも補助が出ればもっと活動の場も広がるので考えていただきたい。

委員： 今回の総合戦略の骨子で、ほんとにこれで若者を呼び込めるのか疑問を感じた。そういう意味では、目先のすぐに成果が出るようなプロジェクトを若者に対してうっていくというやり方や、柏崎に対して若者の関心を引き付けていくには、やはり今いる人たちが楽しそうに働いている、楽しそうに暮らしている姿が見えてくるようなプロジェクトがあるとよい。具体的にアイデアとして、市内二大学の学生の定着を図るための特別枠による長期インターンやスモールビジネスや起業できるかわからない人を掘り起こしていくという方に力を入れたほうが、外から見ていてあそこに行くとなにかできるかもしれないという期待感につながるのではないかな。あとは、どうやってそれをPRしていくかというところを考えてもよいのではないかな。

委員： 4ページの「電力事業自由化プロジェクト」について、電気料などとして市外に多くの資金が流出している。これをいかに抑制するか、もしくは地元の資本で少しでもカバーしていくかというのが貧乏にならないひとつの手段になる。そのことによって新しい事業が生まれたりするので、電力事業は簡単ではないが今後の市町村のお金を考えた時に、極めて重要な課題である。

会長： 自分の使うエネルギーは自分で作るのが理想だと読んだことがあるが、そのような政策により柏崎が新しいエネルギーの町として脱皮していくこともひとつの考えだ。

副会長： 同感である。柏崎でもバイオガスや木質ペレットなど少しずつ取り組んでいるが、それをもっと進めて、少なくとも市民の使う電氣量を少しでもカバーできるように将来的にはなしてほしい。

委員： 若年層の転出が意外に長岡や新潟に転出する人が多く、柏崎から近い所へ転出する人は多くの人が柏崎に心を残して出ている。そのような人たちがそのまま市外に定住してしまうのはもったいない。通勤の不便の解消、便宜を図る施策を考えながら、柏崎に定住しつつ仕事は市外に出るようなことも考えてよいのではないかな。

委員： 以前地域医療の会議でも話し合ったことがあるが、今柏崎には看護学校が新潟病院にひとつあるが、まだまだ看護師は不足している。そこで、すでにある高校、大学の中に看護学科とか看護学部を新設することを提案したい。柏崎市としても是非検討してほしい。

委員： 地方創生の新年度の国の概算要求を見ると、ハード面でも補助金が出るということだが、全体的に見るとソフト面ばかりなので、インフラの整備（情報、交通網等）も一つ二つは芽だしたほうがよいのではないかな。

委員： 最重点目標が、市民全体から指示されるものと考えたときに、高齢者や大人も、若者を支

えるために頑張っていく気持ちを持てるような視点からのプロジェクトも必要ではないか。
また、基本目標の4つの柱の順番を議論してもよいのではないか。私は「子どもを生み育てやすいまちをつくる」「定住を促す魅力あるまちをつくる」など短期的に効果のあるものが上にきたほうがよいと思う。

委員： 出生率を高めていくことも重要である。現在は第3子からいろいろなサービスが受けられるが、これを第2子からにして、たとえば市税を軽減するとか具体的に目に見えるような施策を考えていただきたい。

委員： 若者の雇用の場がないわけではなく、若者が求めている仕事になかなか見つからないということが現状だと思う。雇用する側も雇用される側も、就職するというのはリスクが高いので、試験的に働くことができるなど働き口の入りやすさをつくるなど、自分に合った仕事を見つけやすい環境があれば定住にも繋がるのではないか。もう一つは即効性のある目玉のプロジェクトが必要である。

会長： 特に若い女性の働く場がないとアンケートからわかる。それは第3次産業になると思うが、柏崎は製造業が中心で若い女性が働きたいと思う職場がない。それをどうやってつくっていくかということになるが、それは観光産業に求められるのかと思う。

委員： 私の町内はここ数年、自然増減がない。何故かと考えたとき、便利のいい所で、柏崎全体が子どもを生み育てやすい町だからであるのと、地域の活性化があること。青年会が上手に若い人を巻き込んで定着につながっている。お祭りや町内会の行事に参加するということが案外大事であると感じている。

委員： 少なくとも総合計画の策定にあたっては市街地とそれ以外の周辺地域の違いを考慮したうえで考えていく必要がある。学生たちに対して柏崎の企業が情報を十分提供していくことが若者の定着にも繋がると考える。

教育に関して、高校の教員は自分の生徒を4年生大学に行かせたいと思っている状況があり、教員の発想の転換が必要だと考えている。また、柏崎出身の教員のほか、出身以外の教員に対して柏崎の魅力を発信していくことも必要だと思う。

将来を考えたとき、看護師は様々な仕事ができることから、余るということはないので、実際に今現在、足りていないことから増やすためのその手だてをお願いしたい。

毎年、市内の30人程度が市外の看護学校に進学しているが、ほとんど戻ってきていない。一旦、出ると戻ってくることが難しい。市外にいる出身者に対する情報提供が必要である。

事務局： 先ほどの委員からの交付金とハード事業について発言があったが、国からの情報では基本的なソフト事業中心ということで聞いており、今回の骨子もソフト事業を中心としていることで理解いただきたい。

会長： まとめとして自身の意見を述べておきたい。

柏崎は東京や横浜と比べるような都市ではなく、田園都市であり海浜都市である。これを活かしたまちづくりを進めていかなければ柏崎は生き残っていくことができないと思う。これは都市の洒落た環境の中でごみごみと暮らしていくのか、それとも少し田舎で不便だけど良い自然のなかで伸び伸びと暮らしていくのかという人生観の選択でもある。田舎でゆっく

りと暮らすことを望む人々は徐々に広がりつつある。そういう人達を柏崎にどのように引き付けていくかが柏崎の生き残り戦略の一番の肝だと考えている。

そういう意味では、観光業でいえばまちと田園、産業でいえば農業と漁業、それを核とした六次産業、製造業は受け継いできたものであり、しっかりと守っていくことであると言える。やはりアドバルーンとして上げるには他の都市にないものを上げていく。柏崎の海は非常にきれいで東京にはないものである。浜茶屋も工夫することで十分に人を引き付けることができるだろうし、また、スキューバダイビングができる環境づくりを行政が進めるといったことを戦略的に進めていくことで人を引き付けていくということだろうと考えている。

最重要目標に「若者が愛着と誇りを持って暮らす」とあるが、誇りは理性的なものであり、愛着は感情的なものであるので「誇りと愛着」にした方がよいと考えている。

次回は、今回の議論を踏まえた素案をもとに議論を進めていきたい。

市長： 限られた時間のなかで、多面的な意見を頂き感謝申し上げます。今回頂いた意見をもとに肉付けを行い、次回に案を示していきたい。

5 その他

事務局より以下の事項について報告を行った。

- (1) 「まちづくり市民フォーラム」について
- (2) 各分科会の進捗状況と今後の進め方について
- (3) 次回以降の開催日

第4回 10月2日（金）午後3時から

第5回 10月20日（火）午後3時30分から